

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】(中学校用)

都道府県名	青森県
-------	-----

・学校の概要

平賀町立平賀西中学校						
	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	4	1	14	
生徒数	138	139	136	3	416	

・実践研究の概要

1. 主題(テーマ)

- 一人一人が生き生きと学ぶ指導法の研究
 - 確かな学力の向上を目指した指導法・指導体制の工夫改善 -

2. 内容と方法

(1) 実施学年・教科

- 2・3年生の数学・・・生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり、学年であるため。
 2・3年生の英語・・・生徒の理解の状況に差が出やすい教科であり、学年であるため。
 3年生の選択・・・習熟度別学級編成が可能な教科であるため。

(2) 年次計画

平成
14
年
度

<p>テーマ</p> <p>一人一人が生き生きと学ぶ指導法の研究 - 基礎学力の向上を目指した授業の改善 -</p> <p>仮説</p> <p>授業の中で、次のことを工夫することにより、一人一人が生き生きと学び、基礎的・基本的な学習内容が定着し、基礎学力が向上するであろう。</p> <p>1 「生徒が活動する場面」を設定し、個に応じた支援のあり方の工夫をする。 2 授業における望ましい学びの姿勢を育成する。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>1 TTによる個に応じた学習指導(1年・3年数学、1年英語) 2 選択教科における習熟度別学習(3年選択) 3 評価を生かした学習指導</p>

テーマ

一人一人が生き生きと学ぶ指導法の研究

- 確かな学力の向上を目指した指導方法・指導体制の工夫改善 -

仮説

生徒の実態に即し、教科・領域における指導方法・指導体制を工夫改善することにより、一人一人が生き生きと学び、確かな学力が向上するであろう。

研究内容

- 1 個に応じたきめ細かな指導方法・指導体制の充実
 - (1) TT 活用による少人数学習等の指導方法・指導体制の工夫
 - (2) 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導
 - (3) 自ら考え、追求する課題解決的な学習指導
- 2 個に応じた指導のための教材開発
 - (1) 小・中の系統性を踏まえた教材開発（国語、数学を中心に）
 - (2) 発展的学習や補充学習に即した教材開発
- 3 評価を生かした指導の改善
 - (1) 過程を重視し、指導と評価の一体化
 - (2) 一人一人の学力を伸ばす形成的な評価

テーマ

確かな学力を身につけ、進んで学び合う生徒の育成

- 主体的な学びをつくる評価（と支援）の工夫 -

仮説

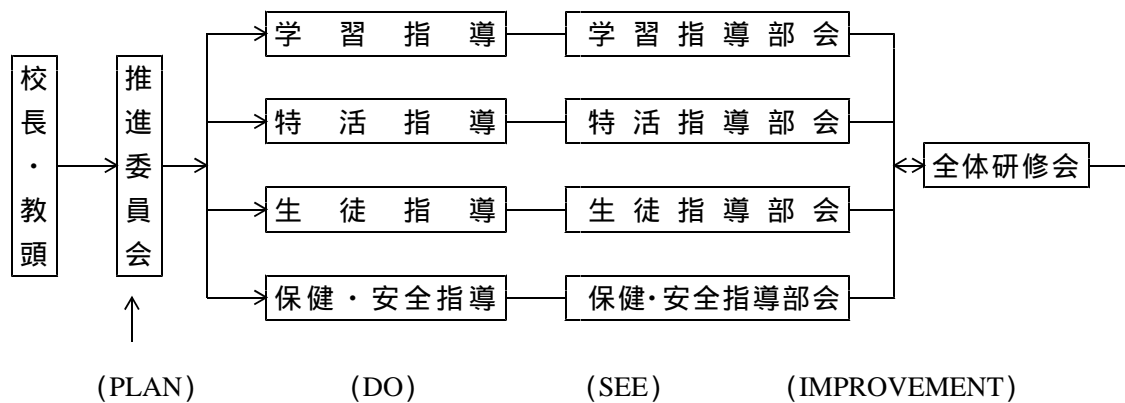
教科・領域の学習指導において、評価を生かした学習課程を組み、個に応じた支援が展開されれば、確かな学力が身につけ、進んで学び合う生徒が育成されるであろう。

研究内容・方法

- 1 評価を生かした指導の改善
 - (1) 評価を生かした学習指導の展開
(生徒による自己評価、相互評価を中心に)
- 2 個に応じたきめ細かな指導方法・指導体制の充実
 - (1) TT 活用による少人数学習等の指導方法・指導体制の工夫と改善
 - (2) 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導
 - (3) 自らが課題追求し、成果を分かち合う課題解決学習の展開
- 3 個に応じた指導のための教材開発
 - (1) 小・中の系統性を踏まえた教材開発の工夫と改善
 - (2) 発展的学習や補充的学習に即した教材開発の工夫と改善

(3) 研究推進体制

研究の中核となる研修推進委員会を特設委員会として設置している。



平成15年度の成果及び課題

1. 研究の成果

本校で実施している標準学力検査の結果を2年間併記する。

	国 語		社 会		数 学		理 科		英 語		教科平均	
	平成14年	平成15年	平成14年	平成15年	平成14年	平成15年	平成14年	平成15年	平成14年	平成15年	平成14年	平成15年
1年	52.1	51.0	47.9	49.5	51.3	50.4	52.1	50.5	/	/	51.0	50.5
2年	48.9	52.8	50.4	52.4	47.8	46.1	51.5	49.5	46.7	51.6	49.1	50.3
3年	50.4	50.9	49.6	50.3	50.0	47.9	50.0	52.5	46.4	48.2	50.5	49.9

この検査は毎年4月に実施するため、今年度の研究成果ということとはできない。前年度の取り組みの成果を考察することで、今後の研究の方向性を確認したい。

14年度と15年度を同じ対象生徒で比較すると、現2年生では数学と理科が下がったものの国語と社会に伸びが見られる。現3年生では社会と数学はほぼ同ポイント、国語と理科そして英語は上昇傾向にある。

1年で実施した英語のTTはかなりの効果があり、前年度の結果からみると5点近くの上昇がみられた。

1年数学はTTによる学習を3年生でも実施したため、週1時間の実施であった。そのためポイントが伸び悩み、TTによる学習効果は少なかったと思われる。

なお、昨年度は3年の選択授業において希望校別に少人数学習を実施したこともあり、希望通りの進路決定者が90%に達した。「数値としての学力」ではあるが、研究の成果として記したい。

これらの結果を踏まえ、今年度は数学・英語の2・3年生において2C3T(2つの学習クラスを3人の教師が担当)による少人数学級編成による指導を実施した。

数値的な結果は16年4月となるが、指導教師の反応は「少人数制ということで一人一人の生徒に目が届き、丁寧な指導ができる。」また、「提出物などの点検などもしっかりでき、よりきめ細かな指導が出来た」と、おおむね良いものであった。生徒の反応も「わかりやすい」「質問しやすい」など、肯定する声が多いであった。

2. 今後の課題

2年・3年生の英語と数学において、2C3Tによる少人数学習を進めてきた。

機械的に生徒を振り分けたクラス編制であったため、クラスの学力差や生徒同士の人間関係の面での配慮に欠けた点は否めない。また、数学と英語の担当教師は、自分の所属学年である生徒の1/3しか指導できないというジレンマもあった。

これら明らかとなった問題点を踏まえ、現在は英語・数学とも4つの通常クラスで授業（TT含む）を行っている。学級内での習熟度別学習を試みる授業も出てきている。

少人数学習の実践から、来年度は次のような方向で研究を進めていきたい。

クラス編制には十分に配慮しながら習熟度別学習を押し進める。その際人数を一律にするのではなく、習熟の遅い生徒は5～6人程度、中間クラスを30人程度、残りを上位クラスで編制する等の工夫が必要である。また、教科・単元における習熟度が人間関係に影響を及ぼすことのないよう、本人の希望を受け入れながら編制に臨みたい。

どのような単元・教材で、どのような指導体制・指導方法が有効なのかをさらに明らかなものとし、教材開発・評価もあわせ、力強く研究を押し進めていきたい。

学力把握のための学校としての取り組み

1、標準学力テスト（NRT）

- ・調査の目的・・・「確かな学力」の実現状況を確認する。
- ・実施内容・・・1年生（小学校6年の内容で国語・数学・社会・理科の4教科）
2年生（中学校1年の内容で国語・数学・社会・理科・英語の5教科）
3年生（中学校2年の内容で国語・数学・社会・理科・英語の5教科）
- ・実施時期・・・4月上旬

2、校内定期テスト

- ・調査の目的・・・各教科における到達度を確認する。
- ・実施内容・・・国語・社会・数学・理科・英語
- ・実施時期・・・7月、10月、12月、2月の年4回

・フロンティアスクールとしての成果の普及

1、説明会

- (1) 事務所管内校長会
- (2) 事務所管内小中教務主任研究協議会
- (3) 町内小中交流協議会

2、公開発表

平成16年10月27日

3、HP作成 (http://www.town.hiraka.aomori.jp/edu/jrh_nishi/index.html)

4、研究成果の他校への反響

本校の研究指定により、町全体の学力向上を目指し、「平賀町基礎学力向上推進委員会」が発足した。町の全小中学校を対象に、今後2年間の計画で次の事業が展開される。

(1) 学習ノート編集発行事業

町内小中学校で学習ノートを編集し、町内小学校1年生から中学2年生の全生徒を対象に配布する。本校ではこの事業に合わせて毎週月曜日と金曜日に清掃終了後25分間のドリルタイムを設定し、各教科の基礎基本の充実を図っている。

(2) チャレンジ検定・表彰事業

配布された学習ノートをもとに作成した問題で検定を行う。1月に実施。合格者には合格証を与える。

(3) 町学力実態調査研究事業

町内児童生徒の学力の実態を正確に把握し指導と評価に生かすため、標準学力検査を実施し、その結果について詳細な分析・考察を行った。

本校で実施していたNRTが町内小中全校で実施されたことにより、小・中学校全体の課題が明らかとなり、系統的な指導の重要性も見えてきた。

(4) 町学習支援員派遣事業

町雇用の学習支援員(町全体で6人)が各学校に派遣され、補充学習を中心とした学習支援を行っている。本校には国語、英語、数学の支援員を週替わりで毎週1名派遣されている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無